

「協創」推進の取組み状況

- ▶ 1 検討の背景
- ▶ 2 これまでの取組み
- ▶ 3 現在の取組み
- ▶ 4 これからの取組み

協創とは

自治基本条例に
盛り込みました

多世代 の 参画

- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）



多分野 の 協働

- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生



多世代にわたる参画
多分野における協働

が創出されることで、

誰もがつながり合える(多世代共生型)コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

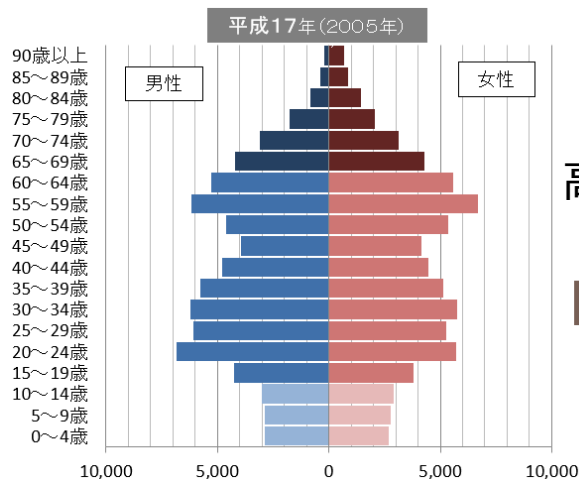
様々な地域課題の解決 +
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備（地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり）

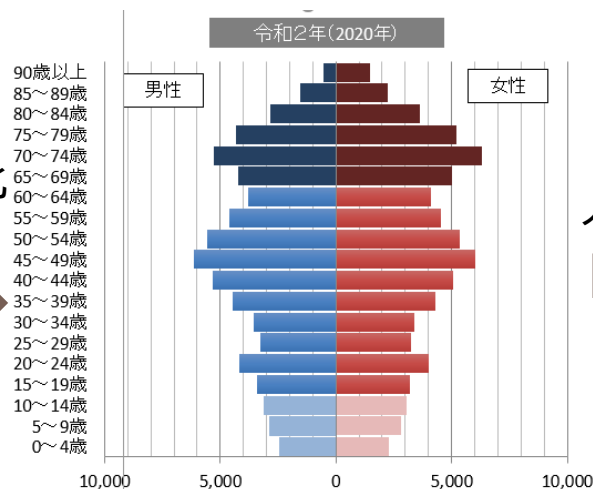
1 検討の背景 ①

2005年(国勢調査)



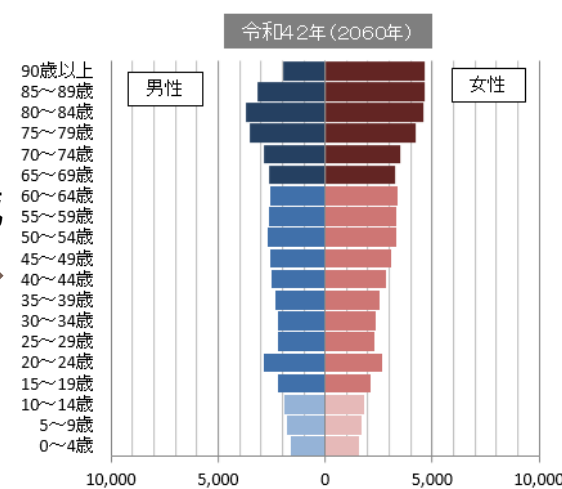
高齢化率 15.8%
人口 145,877人

2020年(国勢調査)



高齢化率 29.0%
人口 146,951人

2060年(社人研推計)



高齢化率 40.4%
人口 105,969人

高齢化
進行

人口減

「多摩市自治基本条例」

2004年(平成16年)制定

⇒市民主体のまちづくり、市民と行政との協働によるまちづくりを推進

約20年

●高齢化の進行

●ライフスタイルや働き方の多様化 + ●コロナ禍

●地域が抱える課題の多様化・複雑化

取組むべき
課題

第五次多摩市総合計画第3期基本計画

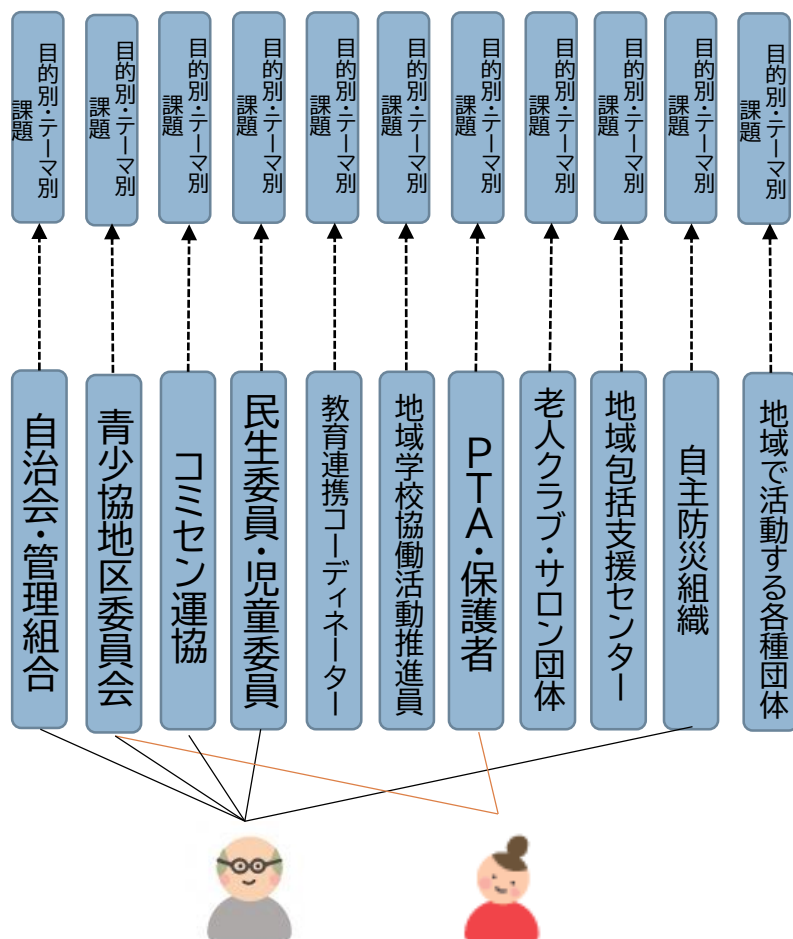
「市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」

※国等でも同様の議論

1 検討の背景 ②

現 状

行政:分野ごとに対応
市民:リーダー層の重複・不足



将 来

行政:横断的に対応
市民:プレーヤー層の拡大・負担の低下

多様化・複雑化する地域課題の解決へ



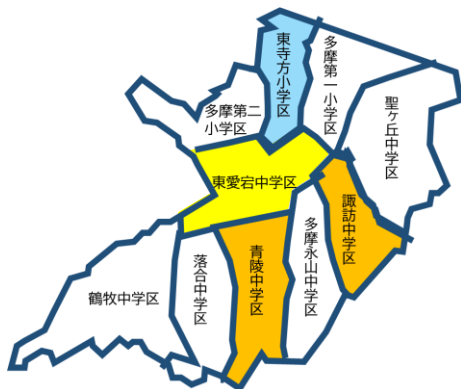
2 これまでの取組み ①

議論

自治推進
委員会

- (1) **市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり**について
((仮称)地域委員会の設置、地域担当職員の配置について)
- (2) **現役世代**の地域参加、行政への参画の促進について

4つの モデルエリア



実践

東寺方小エリア



東愛宕中エリア

拠点の開設に合わせて
一般社団法人コミュニティ
ネットワーク協会と協働



諏訪中エリア



若者世代の参画に関して
合同会社 MichiLab
(多摩市若者会議)と協働

青陵中エリア

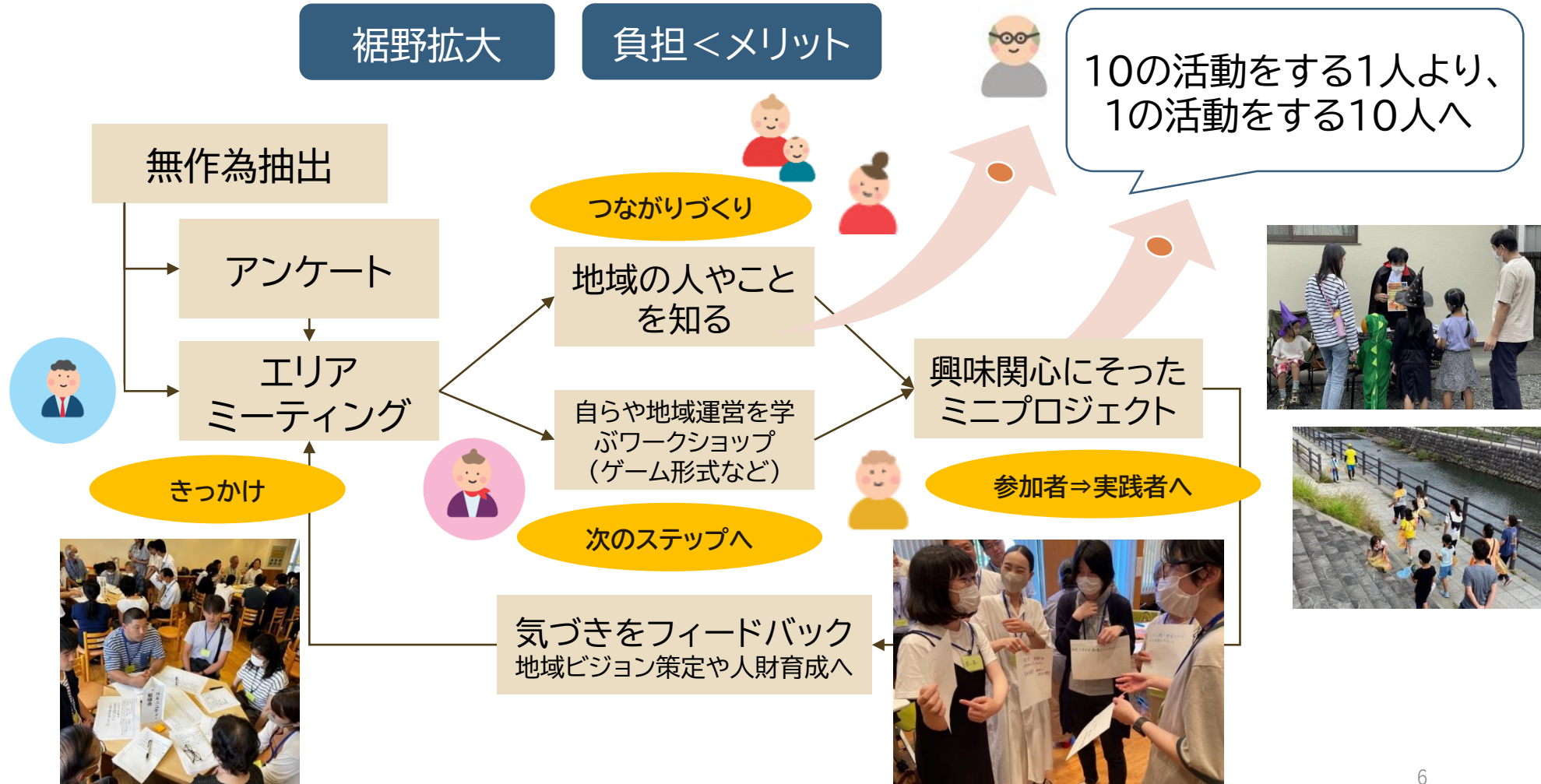


2 これまでの取組み ②

2020年東寺方小エリア居住者への無作為抽出アンケート

538名から回答

・地域活動に関心がある50%、現在参画中は10%。



2 これまでの取組み ③

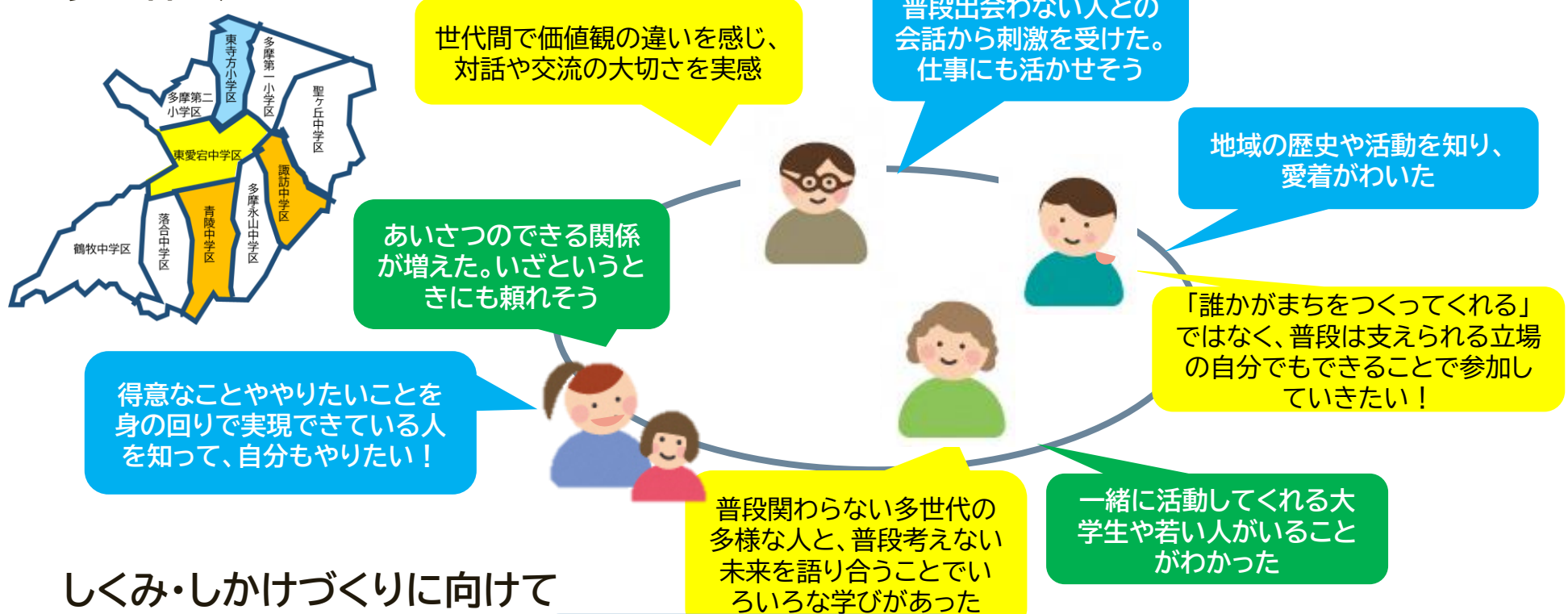
地域でのつながりづくりの主なメリット

①ウェルビーイング観点

②セーフティネット観点

③持続可能性の観点

参加者の声



しくみ・しかけづくりに向けて

地域を「**支える**」
地域で活動する人・団体を応援する

地域を「**つなぐ**」
地域で活動する人・団体が縦横につ
ながる場・機会をつくる

地域の中で「**掘り起こす**」
新たな地域人材を発掘・育成する

3 現在の取組み ①

エリア	取組み進捗	関係性・つながり		○成果 ▲課題
		大学・高校	企業等	
東寺方小 (中村ゼミ)	無作為抽出によるエリアミーティング (エントリー層) 活動実践者による協創ミーティング (アドバンス層) ミニプロジェクトの実践 企業等との連携	中央大学 多摩大学附属 聖ヶ丘高校	スターバックスコーヒー オーパ 高齢者施設など	○市民主体の取組み 開始 ▲市民活動への資金面 も含めた多様な支援 ▲参加者の層を広げる 情報発信のしかけ※
諏訪中 (MichiLab)	無作為抽出によるエリアミーティング 地域での市民主体の活動の試行	多摩大学 多摩大学附属 聖ヶ丘高校	UR Iレジリエンス	○移住若年層などとの 関係づくり ▲団地建替え事業など との今後の関連 ▲参加者層の拡大※
青陵中 (MichiLab)	無作為抽出によるエリアミーティング 社協との連携 ランタンフェス、コミセンでの取組み 等との連動	大妻女子大学 多摩大学	JS 社協 コミセン運協 など	○移住若年層や地域事 業などとの関係づくり ▲市民主体の取組み実 践の加速
東愛宕中 (CN協会)	コミュニティプレイスでの活動との連 携 住民ニーズ把握と多様な実践の試行	中央大学ボラン ティアセンター	CN協会 JKK 国交省 「住宅団地に再生に向けた住民活 動等に関する調査事業」(全国9事 例)	○活動事例の積み上げ ▲参加者の層を広げる 情報発信※

※今後の検討事項：分野横断での情報整理・発信や活動スタートの支援(R7年度予算化検討事項)
地域での活動実績をフォーラムとして広める機会の実施(毎年冬ごろ 今年度は1月後半予定) 8

3 現在の取組み ②

■東寺方小エリア

中央大学
中村ゼミ

エリアミーティング

6/30(日)10時～12時 開催

○参加者 38人（無作為11人、高校生5人、小学生5人、
その他(R4わがまち学習講座参加者 等)
参加者中30人が40代以下）

○テーマ

- ・まちづくりシミュレーションゲームの体験
- ・ゲーム振り返り、目指す地域について

○アンケート・参加者の声

8割が次も参加意向(回答37名)

- ・様々な年代、背景をお持ちの方と話すことで、自分と違う感覚や意見を聞けて面白かった。
- ・普段交流することのない市民の方々と一緒に活動できて、貴重な体験ができた。
- ・どれも大切で事業の取捨選択が難しかった。
- ・初めは話せるか心配だったが、話し始めるとこんな事を考えているんだと意外な気づきがあった。
- ・地域で顔が見える関係をつくって、コミュニケーションを取っていきたい。



⇒11/10(日)、11/16(土)にも実施

3 現在の取組み ③

■諏訪中エリア

MichiLab

エリアミーティング

9/1(日)13時30分～16時30分 開催

○参加者 19人（無作為10人、高校生2人、その他(過去参加者 等)
約半数が40代以下）

○テーマ

- ・まちづくりシミュレーションゲームの体験
- ・ゲーム振り返り、目指す地域について
- ・自己紹介ワークショップ

○アンケート・参加者の声

8割が次も参加意向(回答14名)

- ・普段は同世代と話すことが多いけど、様々な世代の方と話すことができとても貴重な機会だった。
- ・自己紹介ワークでは、**地域にこんな人がいるんだ！**と知ることができ楽しかった。
- ・以前にもシミュレーションゲームを体験したことがあったが、前回と違う結果になり、一緒に体験するメンバーによって、こんなに結果が変わってくるのかと気づきがあった。
- ・ゲームだからこそ**失敗を恐れずに決断**をすることができた。
- ・全員に対して有益な事業はなく、だからこそ**対話を重ねて決めていく**ことがすごく重要だと気づいた。

⇒11/23(土)にも次回実施



10/5(土)諏訪名店街にて取組み 10

3 現在の取り組み ④

■青陵中エリア

MichiLab

エリアミーティング

8/24(土)13時30分～16時30分 開催

○参加者 20人（無作為10人、高校生1人、大学生2人
その他(過去参加者 等) 約半数が40代以下)

○テーマ

- ・まちづくりシミュレーションゲームの体験
- ・ゲーム振り返り、目指す地域について
- ・自己紹介ワークショップ

○アンケート・参加者の声

回答者全てがこれから地域と関わり持ちたいと回答(回答18名)

- ・どの事業も意味があって取り組まれているものなので、
取捨選択をすることが本当に難しかった。
- ・若者会議の方と繋がることができ良かった。

- 自分のアイデアを一緒になって実践していけそう！
- ・地域の方との交流の場をつくっていきたい！
- ・トップの方針で方向性が変わる面もあるので、
選挙がとても重要だと思った。



⇒11/30(土)にも次回実施

3 現在の取組み ⑤

■東愛宕中エリア

CN協会

コミュニティプレイスあたご(R5.4オープン)を 拠点とした取組み

昼はデイサービスや地域交流室、夜はカフェバーとして

多世代が自然と集う地域の拠点となっています。

各種イベントでは、**中央大学ボランティアセンター**の学生が主体となって、企画運営し、多世代での賑わいの場づくりが進められています。

デイルーム愛宕

就労継続支援B型の利用者が、デイルーム愛宕の利用者と共に支え合う環境が生まれています。

絵画が得意なデイの利用者が就B利用者やデイスタッフに教えるなど、**「支える・支えられる」の関係性を越えた地域の居場所**になっています。

誰でもカフェあたご

毎月第3土曜日に**「地域住民や友人同士、年配の人、認知症の人などが情報交換やプログラム参加を通じて、楽しく交流する場」**として、開催されています。

「やって欲しいこと!」「やってみたいこと!」を参加者同士で出し合って、交流を通したマッチング機会となっています。



「あたご縁日(R6.9.15)」の様子 来場者96名



3 現在の取組み ⑥



■東寺方小エリア
無作為抽出によるエリアミーティング
(エントリー層向け)



■東寺方小エリア
スターバックスコーヒー聖蹟桜ヶ丘オーパ店とのごみ拾い企画



■青陵中エリア
無作為抽出によるエリアミーティング



■諏訪中エリア
住民主体の活動試行



■東愛宕中エリア
誰でもカフェあたごでのニーズ聞き取り

4 これからの取組み ①



「協創」を実現するための環境整備

3つの柱・視点

地域を「**支える**」

地域で活動する人・団体を応援する

地域を「**つなぐ**」

地域で活動する人・団体が縦横につながる場・機会をつくる

地域の中で「**掘り起こす**」

新たな地域人材を発掘・育成する

職員体制
研修制度

第三者
による支援

場づくり・
関係性の構築

若い世代が
参加しやすい

4つのしくみ・しかけ

協創職員制度の導入

中間支援機能を担う団体
による伴走支援

多活動マッチング型の
地域プラットフォームづくり

地域共助が可視化できる
ツールの導入

4 これからの取組み ②

4つのしくみ・しかけ 1 「協創職員制度の導入」

地域を「支える」

■協創職員制度の導入

●協創スタッフ(協創推進室R6.4配置)

■協創スタッフ(専任)の職務内容

- 地域を**支える** (≡アドバイス)
 - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
 - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ** (≡コーディネート)
 - 地域の会議に参加し、関係づくり
 - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす** (≡プロデュース)
 - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
 - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり



地域の参加者と同様に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

●協創サポーター (R6.10～試行中)

■協創サポーター研修制度(若手職員)

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る(コミュニケーション能力、ファシリテーション能力)
 - ⇒令和6年度は公募職員による試行**11課17名**
 - ⇒令和7年度は2年目全職員(本年度1年目36名)

●協創シニアサポーター (構想中)

- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討

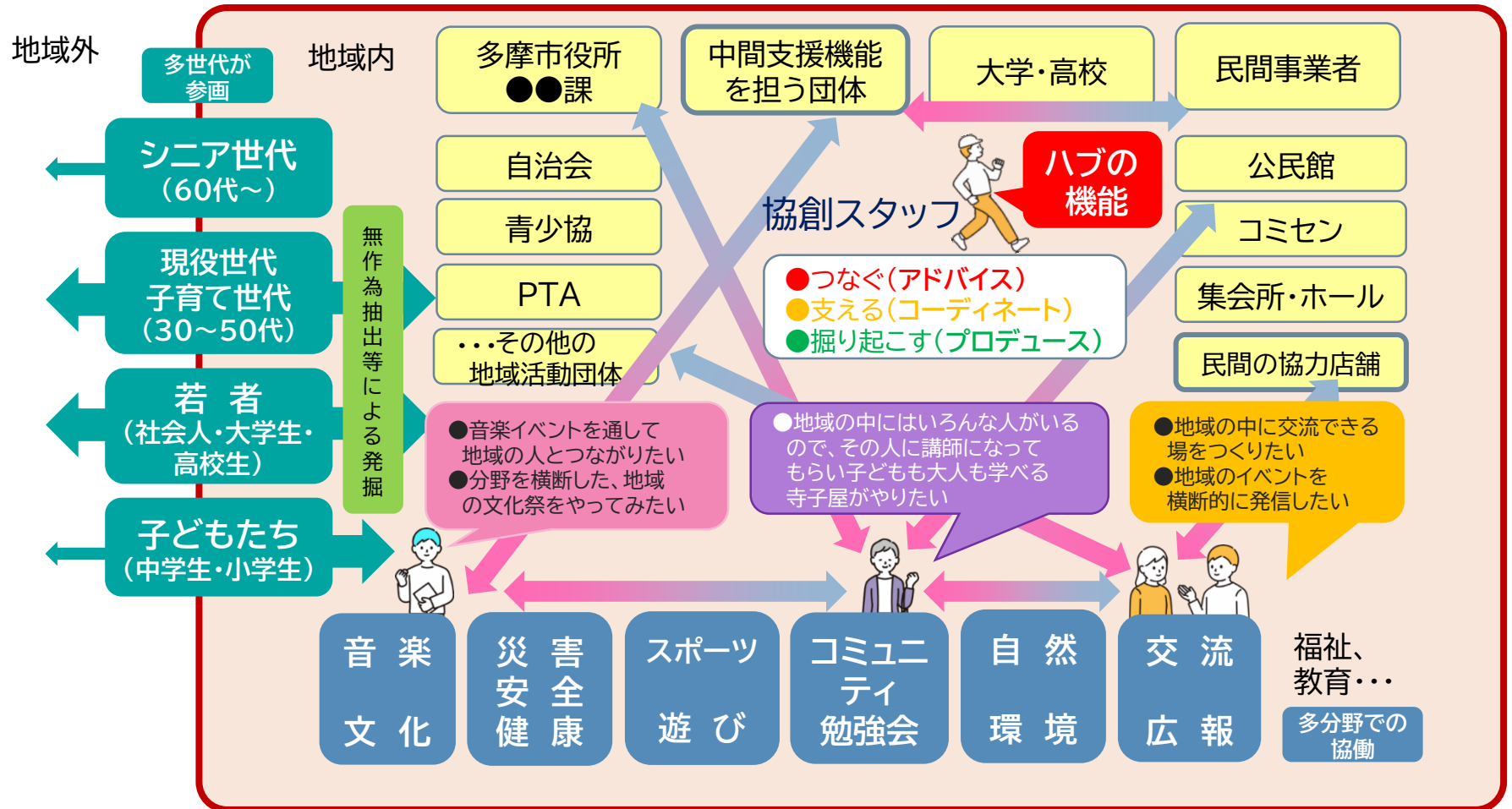


組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

4 これからの取組み ③

4つのしくみ・しかけ 1 「協創職員制度の導入」

協創スタッフの働きかけによって、既存の機関・場と多世代・多分野のやりたい活動をマッチング



4 これからの取組み ③

4つのしくみ・しかけ 1 「協創職員制度の導入」

協創サポーターの活動の様子と参加しての感想
(R6.10～ 11課17名 10年目程度まで)



塗り絵をするお子さんやお写真を撮る方、みなさんが笑顔で過ごされていて、この活動に参加できてとてもうれしかったです。
お子さんが塗り絵をしている間、大人の方も時間を有意義に過ごせたらと思いました。(多摩市のPR動画を流す。どんなことに興味があるかアンケートを取ってみる等。)



短い作業時間ではありましたが、皆さん怪我なく無事に終わられて良かったです。最後にみなさん拍手で讃えあって喜んでもらえて携わってよかったなと思いました。

今日の準備で、地域活動をされている方々に優しく接していただき、これから
の活動がとても楽しみにになりました！

今日はいろんな方とお話ししながら作業ができて良かったです！ これまではすでに準備されたお祭りに参加して楽しむだけでしたが、事前に準備をしてくださっている人がいること(よく考えれば当然ですが)を感じる事ができました！



こうした機会地域の方から自然に話しかけられコミュニケーションを取れて大変良かった。
市内には知り合いがあまりいないのでこれをきっかけに増やしていきたい。



今回の活動は、普段の業務では経験しない場であったため、新鮮で楽しかったです。ご高齢の方と子どもと一緒に遊んでいる様子が素敵だと感じました。元気な子どもたちと触れ合うこともできパワーをもらえました。協創サポーター用の職員の名札があった方が良かったと感じました。



4 これからの取組み ④

4つのしくみ・しかけ 2 「中間支援機能を担う団体の紹介・育成」

地域を「支える」・地域を「つなぐ」

現在は

- 中央大学国際経営学部中村ゼミ
- MichiLab(若者会議)
- コミュニティネットワーク協会
と連携して活動中

■ 中間支援機能を担う団体による伴走支援

地域発の多様な活動を、協創スタッフによるアドバイス・コーディネート・プロデュースのほか、**中間支援機能を担う団体**のネットワークなどで実現



- 地域や市民発意の多様な活動を、市民でも行政でもない立場から支援
- 自分たちの事業もしながら、他者に目を向けて、縦や横のつながりを、地域の活動に合わせて組み合わせることができる
- 地域ごとの特性、活用できる資源、抱える課題も異なることから、中間支援のあり方もさまざま

4 これからの取組み ⑤

4つのしくみ・しかけ 3 「多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり」

地域を「つなぐ」・地域の中で「掘り起こす」

■多活動マッチング型の地域プラットフォームづくり

- 地域で活動する組織・団体の再編成
- 多世代への呼びかけによるエリアミーティングの開催
- 人同士、団体同士のマッチング

エリアミーティング参加者の主な意見



- 世代間交流、地域間交流の居場所づくりを
- 若い世代と地域の未来を考える機会が嬉しい
- 世代によって大切にすることに差。交流つながりが大事
- 参加してそれぞれの活動や市の施策を知れてよかった
- お互いの活動やこうした場の宣伝が必要
- すでにいろいろ活動している参加メンバーからの想いをつなぐキッカケづくりを
- 無関心に関心層に、関心層を中心層に、小さな「つぶやき」をストックしてつなぐ
- とても楽しかった。実はこういう機会を求めていた
- 地域に愛着がわいた

※令和4年度総務省地域運営組織の「柔軟な最適化」ワークショップの受入実施
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/chiiki_unneisosiki.html

4 これからの取組み ⑥

4つのしくみ・しかけ 4 「地域共助を可視化できるツールの導入」

地域の中で「掘り起こす」

来年度着手予定

■地域共助が可視化できるツール(地域ポイント・地域通貨)の導入
ITツールを活用し、地域参加をポイント化するなど、可視化し、
そのポイントを地域で地域通貨として使用できるしくみを導入すること
により、大学生や若い世代の参加促進につなげる

主な議論

- DX活用として、DAO（Decentralized Autonomous Organization=分散型自律組織。すべての参加者が意思決定に加わるオンライン組織）のようなスキームを使い、地域の困りごとを解決する取組みの話がある。
- 先進的な取組みを行って、誘い合わせるようになると自分も楽しみになるため関わりたいし、知人を誘い合いやすくなる。
- 皆が同じようにできるわけではないので、できる人が、できるときに、できるだけやることが大切で、新しいツールなどを活用してバーチャル上でもつながりたいときにつながれるようなものであれば無理なく参加できるのではないか。

4 これからの取組み ⑦

協創 とは

自治基本条例に
盛り込みました

多世代 の 参画

- 子どもたち（小中学生）
- 若者（高校生、大学生、社会人）
- 現役世代・子育て世代（30代～50代）
- シニア世代（60代～）

多分野 の 協働

- コミュニティの醸成、地域の活性化
- 子育て、高齢、障がい、生活困窮者対策
- 教育、青少年の健全育成
- まちづくり、環境との共生

多世代にわたる参画
多分野における協働

が創出されることで、

誰もがつながり合える(多世代共生型)コミュニティ

が生まれ、これが広がりをもつことによって、

様々な地域課題の解決 +
新たなまちの魅力や地域の価値が創造

されること

市の執行機関による必要な環境整備（地域で協創を実現するためのしくみ・しかけづくり）

地域を「支える」

地域を「つなぐ」

地域の中で「掘り起こす」